# 中川根ふる里通信
## ＝ 第69号 ＝

中川根ふる里通信
昭和61年4月20日創刊
編集・発行・連絡先
〒428-0313
静岡県榛原郡中川根町
TEL0547-56-0015 上長尾859-6
郵便振替口座00870-4-81556

緑の風の中、SLが走る里

↑下泉（横郷）を走る
大井川鉄道S.L、

田野口トンネル手前の→
SL、（絵ハガキより）
新茶時期の輝く緑に
列車がよく生える

# 春が来た春が来た どこに来た
# 山に来た 里に来た 野にも来た

昨年末より厳しい寒さのふる里でしたが、第68号を発刊する頃より急に温かくなり二月、三月初めと寒い中にもすごしやすい冬から早春となり、花咲く春を迎えています。

今年は全国的に桜花の開花が早かったですね。特に東京の早さには驚いてしまいます。地球温暖化の象徴なのか、それとも東京周辺の排気等温室ガス効果と言うのでしょうか。静岡や川根より一週間以上の差があるようですね。

こちらでは三月下旬が見頃の予定が、春分の日が来ても温度が上らず、蕾から満開まで日数がかかり、一斉に咲かず、蕾あり、五分咲きあり、満開あり、傍では早くも散りはじめるといった、長々とした桜花になりました。

中川根の桜の名所は、徳山、桃沢両岸から川根高校と美しいしだれ桜も並木になって多くの人が花見に来ます。川根町の家山の桜も有名で、今年もみごとな花を付けました。桜トンネルの名で親しまれている、国道の両わきの並木は、昭和六年頃、当時の中川根村長鈴木豊太郎氏によって植えられたものと聞きました。樹種のソメイヨシノは、意外と生命力が短く、六十年も過ぎると朽ちてしまうと言われていますが、桜トンネルの並木はよく手入れされていて、老木ながら、毎年美しい花を咲かせてくれます。

毎年淡桃色の可愛いい花を付けみんなの目を楽しませてくれる下泉腊山本家の彼岸桜は、今年はほんの少ししか咲かず残念でした。そのほか、下長尾、梅高でも、同じ現象が見られたとか、原因は昨年五月二十三日の降雹とか、降雹地域の樹木が被った痛手は、まだまだ治っていないのだなーと思いました。

四月下旬には大札山方面のアカヤシオ、五月下旬には蕎麦粒山一帯のシロヤシオを中心とした自然の森の花や木々の躍動が見られます。

春霞が淡い花や新芽を一層淡くぼかしてくれてふる里は今、春一色に包まれています。もう少ししてゴールデンウィークになった頃、お茶摘みがはじまります。お茶のみどりが里中をそめて、お茶時に入ります。今年のお茶の出来はどうでしょうか。きっと良質のご自慢のお茶がとれると思います。

今春、何よりも良かった事がありました。スギ花粉がほとんど飛ばなかった事です。引き続き咲くヒノキの花粉も少なかったです。普通の年の何十分の一とか。花粉症で苦しんでいる方々には楽しい春となったでしょう。こちらの原因も昨年六～八月の多雨と日照不足とか。今年の夏はどうでしょうか。

昨年八月、大井川鉄道神尾駅付近の裏山が大崩壊を起こして、線路が埋って列車が通れなくなってしまいました。大井川両岸に道路が出来て、電車の利用客は減少の一途をたどっているのも事実ですが、日本で初めて手掛けたSLの復活など、企業努力と、利用四町の熱意で大井川が成り立っていますので、地元利用客も観光客も不通区間バス運行と不便でしたが、三月末に、全面復旧致しました。SLも金谷駅発となり、大勢の旅人を乗せて、大井川をのぼって行きます。

# お茶あれこれ―第六回―

静岡市　石塚　幸男

## 一、新茶はなぜ美味しいか

この拙文が出るころは、川根路は新茶の香りに包まれているだろう。

新茶はなぜ美味しいか、それはお茶の種々の成分中、旨味成分のアミノ酸(テアニン)が多いからである。茶の樹は、刈り取りが終わるとテアニンが根の方に蓄積し、新茶のころになると、それが上に上がってきて、茎を通り、新芽、新葉へと移っていく。葉中に入ったテアニンは速やかに代謝される(分解されて別の物質になること。この場合は、まずグルタミン酸とエチルアミンに分かれ、そのエチルアミン炭素がカテキンを中心としたポリフェノールに代謝される。このポリフェノールはまた体にいいのであるが・・・)。

この代謝は光に当たると見受けられる現象である。反対に光が遮られると著しく抑制される。覆下栽培がよいわけである。これが言うまでもなく玉露の栽培方式である。

また、テアニンの代謝は温度によっても大きく影響を受けることが分かっている。たとえば温度が10度C上がれば約10日速く、促進される。

古くから言われる「良質の緑茶の産地は河川流域で、朝霧深い山間地」は、自然の遮光、日照制限、冷涼地ということで、テアニンの蓄積にとって好条件を備えていると言える。

とするとこの条件を満たす川根地方が上質のお茶栽培に最適なのである。

さて、お茶は美味しいのみならず、体にも極めてよいことは、広く知られ、また私も、第一回目で述べた通りである。

## 二、健康的な食生活の川根地方

この川根筋は、以前から、消化器系癌が少ないことが知られていた。これに科学的メスが入ったのは、そんなに以前のことではない。

これに関しては、県立大学の小國伊太郎教授らの研究が有名である。

それを、以下に要約してみよう。

胃癌が、静岡県中・西部の大井川、天竜川の上流地域、河川の周辺地域に少ないことは先験的に分かっていた。これに着目した教授らは、一九八二年(昭和57)、静岡県衛生部の協力のもとに、胃癌が最も少ないと見なされる中川根町と、さらに本川根町・川根町を加えたいわゆる3K町、及び比較的胃癌が少ないと思われる島田市と、比較的高いと見なされる県西部のある町(X町としておく)の二地域から次の人数を抽出した。

3K町128名(男62名・女66名)、島田市215名(男107名・女108名)、X町496名(男258名・女238名)の35歳以上70歳未満である。

そこで、次のことが分かった。

3K町と島田市の住民は、X町に比べて、よく緑茶を飲み、さらに茶葉を頻繁にとりかえ、やや濃い目の茶を飲んでいる傾向が認められた。

教授らは、さらに一九八七年(昭和62)に、川根町と中川根町の住民608名(男274名・女334名)、茶非生産地の一町及び一村の住民632名(男193・女439名)の35歳以上70歳未満の住民を調査し

たところ、前者が、後者に比べて、茶葉を頻繁にとりかえ、緑茶を一日に何杯も摂取していることが分かった。

なお、食生活の一般的傾向を見ると、癌の少ない地域は、米食が多い、多種類の野菜を多く、頻繁に摂っている、具が多い味噌汁を摂っている、などの傾向が分かった。

従って、一般的な癌予防策としては、「多様な食品をバランスよく食べる」ことに加えて、緑茶を飲むことが、効果的であることが分かったのである。(『茶の科学』朝倉書店他)

この結果、川根では小さい子どもさんたちまで、お茶を飲むようになったと、小沢節子本誌編集長がうれしそうに語っていた。

こうしてみると、川根筋の人たちは、健康的な食生活をしていることが分かる。

薬理的に見て、緑茶のカテキン、ビタミンA(カロテン)・C・E、クロロフィル、カフェインなどが複合的に発癌を抑止するようである。ただし、カロテンやビタミンEは水溶性ではないので、普通にお茶を飲む場合は、摂れない。だから、茶葉を捨てないで、摂る工夫が大切である(最近食べる茶が注目)。

## 三、実朝の二日酔いを治した栄西

以上は疫学的に観た結果だが、人間は昔から、お茶を体によい、ということを知っていたことでは、いろいろの事例がある。

最初は、修行中の僧が眠気を払うために、茶を喫したと伝えられるが、これはカフェインの作用であろう。カフェインについては後でまた触れる。

禅僧栄西(一一四一~一二一五)の『喫茶養生記』(一二一二)がある。

それを引用してみる。有名な序は「茶は養生の仙薬なり。延齢の妙術なり。山谷之を生ずれば其の地神霊なり。人倫之を採れば其の人長命なり」で始まっている。

大意を述べてみる。「茶は病気にならないように暮らすためには、最良の薬であり、人の寿命を延ばす妙術を具えたものである。山や谷にこの木が生えれば、その地は神聖にして霊験あらたかな地であり、人がそれを採って飲めば、その人は長命を得るのである」となる。

続いて「インド・中国にあっては共にこの茶を貴び重んじている。わが国にあってもこれを嗜み愛している。古今を通じて珍しい得がたい仙薬である。これを摘みとって薬用に使わないでよかろうか」とある。この後に彼は、現代人の耳が痛いようなことを言っている。すなわち「この世界が成立したころの人間は、天人とおなじように健康で頑強であったが、今の世の人はだんだんと低下し、脆弱になった。・・・昔の人は、あえて医療の方法に頼らないで病気を治したが、今の人は健康に対しての配慮が欠けているようだ。・・・一生の健康を保つ根源は、養生することである。すなわちそれは、内臓の五つの器官を健全にすることである。その五器官のうち心臓が最も大切で、これを健全にする方法は、茶を喫することが最良の策である。心臓が衰弱すると、五臓のすべてが病いを起こすことになる。・・・

今の世の医術を聞くに、薬を飲むことによって、心地をそこなうようなことをしているが、それは病いと薬が適合していないためである」よって「この末世にあって起こるであろう病いの相状(症状)を示し、・・・この一書を残す・・・」とある。このように茶への期待大なるもの

がある、と同時に薬に頼り過ぎの現代人、自然環境の汚染による人体への悪影響などを、何となく予言しているようではないか。

話がやや硬くなったが、栄西といえば、源実朝の二日酔いを治した逸話は有名である。

鎌倉幕府の正史ともいえる『吾妻鏡』（第廿二）に次のくだりがある。ここで私も読者とともに高校時代にかえって漢文の勉強をしてみよう。しばらく時間をお借りしたい。

「…今日供奉之輩皆参候。上下盃酌及二数巡一。辨尽レ美。終夜諸人淵酔…四日晴。将軍家聊御病悩。諸人奔走。但無二殊御事一。是若去夜御淵酔余気歟。爰葉上僧正候二御加持一之処。聞二此事一称二良薬一。自二本寺一召二進茶一盞一。而相副二一巻書一令レ献レ之。所レ誉二茶徳一之書也。将軍家及二御感悦一…」

これでは、意味が分かりにくいので、今度は書き下し文にしてみよう。

「今日供奉の輩皆参候し、上下盃酌数巡に及ぶ。辨美を尽くし、終夜諸人淵酔す…四日晴。将軍家いささかの御病悩。諸人奔走す。ただし殊なる御事なし。これもし去夜御淵酔の余気か。ここに葉上僧正（栄西）御加持に候ずるのところ、この事を聞き、良薬と称して、本寺より茶一盞を召し信ず。しかうして一巻の書を相副へ、これを献ぜしむ。茶徳を誉むるところの書なり。将軍家御感悦に及ぶ…」となる。

高校の古文の授業を思い出しながら、かみくだいて大意を述べてみよう。

「今日将軍家にお供した人たちも上下みんな盛大な酒宴を催した。夜っぴて盛んに飲み、深く酔った。…翌四日、将軍家（実朝）はご気分がすぐれなかった。多分昨夜の深酔いのためか。折しも加持のため、おそばに上がった栄西が、将軍家ご不快と聞き、寺から抹茶を取り寄せ、一盞これを献じた。そして茶の効用を称えた本の一巻を将軍家に献上した。将軍家が非常にお喜びになった」とまあ、こんなところだろうか。

「御病悩」が軽快したとは、書いてはいないが、類推はできる。また「一巻の書」はおそらく『喫茶養生記』（その一部？諸説あり）だろうと思われる。

さて、どうして実朝の気分が治ったのであろうか。『喫茶養生記』にもこうある。「…茶を飲むは、酒を醒まし、人をして眠らさらしむ」と。すなわち、茶を喫すると、酒の酔いをさまし、人を覚醒させる、と言っているのである。栄西が記している効能は主にカフェインの効果であることは、容易に推測できる。

これをお茶博士と言われている、林栄一氏（元静岡県立短期大学学長）の御著に拠りながら、説明してみよう。

カフェインは脳にどのような作用をするのか。そもそも、脳には約一四〇億個の神経細胞が存在しているとされる。この脳は、ブドウ糖と酸素によって支えられている。このブドウ糖は新陳代謝をうけてＡＴＰというエネルギー源にかえられる。このＡＴＰが原料となってＡＭＰという物質に変化する。このＡＭＰは神経の働きに関

係する伝達物質を作り出す原動力になる。一方、脳内にあるAMPは、ホスホ・ダイエステラーゼという酵素によって分解されて活性を失う。
だから、AMPの生産と分解がバランスよく保たれていることが必要である。
カフェインが脳に届くと、ホスホ・ダイエステラーゼに取りついて、その働きを妨害するのである。AMPは脳内に蓄積され、活力が強まり、神経伝達物質(カテコール・アミンなど)が遊離し、脳細胞の活動が盛んになる。そして末端の神経活動も盛んにする。また、都合がいいことに、カテコール・アミンはATPからAMPを作り出す過程にかかわっているとのこと。
ここで林博士の面白い実験を紹介しよう。
「酒の酔いを覚ます」という観点に焦点を合わせ、マウスにアルコールを飲ませてみた。15%アルコール0.5mlをマウスに与えたところ、約15分たつと運動はのろのろし、目を閉じて、うずくまり、睡眠状態に陥った。アルコールを与えて、15分後に1.0mlのお茶を与えた。20分後から運動は次第に活発になり、正常の状態と変わらなくなったのである。マウスがうずくまるのは、人間で言えば、酔いつぶれた状態である。つまり、大脳の中枢が、麻酔されている状態である。お茶を与えることによって、脳の中枢が刺激され、目覚めるのである。
一般に、アルコールが体内に入ると、アセトアルデヒド↓酢酸↓炭酸ガスと水に変化する。そして二日酔いの元凶は、このアセトアルデヒドと目されている。
さて、カフェインは、脳ばかりでなく、心筋や肝臓のAMPを増量する。その結果、血液中のブドウ糖量が多くなって、ATP活性を高め、また肝臓のアセトアルデヒド分解酵素の活性を高める。ここでビタミンCとの相乗作用で、二日酔いを改善するのである(『お茶の効き目』『お茶は妙薬』『健康食のお茶』『日本のお茶』他・林栄一)。
こうしてみると実朝も、すっかり気分爽快になったのは、当然だろう。

## 四、『養生訓』に見られる虫歯予防

先人の先験的知見については、江戸時代の貝原益軒(一六三〇~一七一四)の『養生訓』(一七一三)にもしばしば見られる。たとえば、「食後には湯茶を以て口を数度すすぐべし。…夜は温なる塩茶を以てすすぐべし。牙口(歯や口)をすすぐには中下の茶を用ゆべし…」(巻第三)とある。
緑茶には、カテキンやフッ素が多く含まれている。これらの歯に対する驚異的な効用を研究したことで有名な人は、故大西正男東京医科歯科大学名誉教授である。氏の研究によれば、小学校の給食後に一年間、番茶を飲ませたところ、虫歯の発生率がかなり低くなったとのこと。さらに大西氏は、五ヶ年にわたって大規模な実験をしたところ、五カ年間の平均減少率は、小窩裂溝(歯の側面ホーロー質の損傷)で22.1%、平滑面裂溝(歯の上部ホーロー質の損傷)で26.1%であったと報告されている(『緑茶・紅茶・烏龍茶の化学と機能』弘学出版)。
それでは、なぜお茶は虫歯予防によいのか。そもそも虫歯の原因は
①虫歯菌が口中の糖分から不溶性グルカンなる物

質を生成し、これが歯面に付着して歯垢(プラーク)を作る。そしてプラーク内で乳酸を生成し、この酸が歯に穴をあける。これが虫歯である。

②歯の質(ホーロー質)が弱い。

などの二点が挙げられる。茶のカテキン(ポリフェノール)は、この虫歯菌を殺菌するし、フッ素は歯のホーロー質を強くするものである。歯科医院でよくフッ素を塗布するのもこのためである。

先に戻って貝原益軒の指摘した「中下の茶」は、二番茶三番茶に該当する。これらの茶には、カテキン、フッ素が多く含まれているのである。「塩茶」については、市販の歯磨きに塩化ナトリウムが含まれていることに着目すると、理に適っている。彼の先験的知見にはただただ感心するばかりである。

以上、お茶の薬効について、先人の知恵には瞠目せざるを得ない。しかしまた、現代では、お茶の研究については、日進月歩を遂げつつあることは、大方の知るところだろう。

折しも、平成十六年二月十六日(日)の静岡新聞に「体にいいカテキン人気―含有量多い下級茶引き合い」という大見出しで、カテキン人気のペットボトルの需要が多い記事があった。

外国茶の輸入量が増加とあって、全国茶商工業協同組合連合会理事長堀内米次氏の「カテキンを多く含んだ渋いお茶が見直されるきっかけになるのでは。静岡県が全国に誇る山間地のお茶の需要につなげたい」というコメントが載せられていた。まさしくこの通り。特に川根茶よ、がんばれと応援を送りたい。

この回は終り。

## 下長尾　中野幸逸さんよりの便り

平成十六年二月二十三日

今日は中川根ふる里通信第68号をお届け下さいまして有難うございました。表紙を見て先ず驚きました。中川根にも立派な人が現代にも出現して嬉しいやら有難いやらと思いました。高郷の高木壬太郎神学博士に次ぐ現代式の偉い人勝下哲明君に敬意と祝意を捧げる者であります。坂口厚生労働大臣と握手をした、坂本元副知事に「おめでとう」と云われた、こんな姿はなかなか得られるものではありません。勝下哲明君万歳であります。

石塚さんの「お茶あれこれ」も、もう五回に渡り連載され高校時代の恩師とか、文学者として素養のある博識を披露して下さり、今回は「茶切り節」の解説、牧之原開拓史、中勘助と私の知る事が取り上げられ、余計に興味を持ち読ませてもらいました。

山田蔀さんの大井川に関する記録も大したものでありますよくこれだけ踏破して詳しく大井川開発史を教えて下され有難い事であります。野に在る学者です。顕彰の必要がありますね。

渡辺實夫さんの「東京のかたすみから」も四十回ですね、よく長く書いて下さって感謝致します。今回の記事、新聞を見た時に驚いたものでした。あんなにまでして視聴率競争をやらねばならないのか、何たか空虚でした。渡辺さんが何十年テレビ界に努力されて来て、こんな腸を見せつけられ、さぞガッカリした事だったでしょう。「私のテレビ人生をうつろにした」と歎いておられますね。

旧制高等学校寮歌祭・私も静岡で何年前の事か、寮歌

祭を見に行った事があります。中年老年の方達が若い日の思いを胸に、母校の寮歌を大声で唄う様を見て感激したものでありました。

徳山の理髪店桜井勇さん、カルタを作って下さったり、面白い記事を出して下さり、原田耕作さんの後継者になってくれましたね。

おしんのモデル上川根村八木出身の丸山静江さんの記事も二回に亘り実話を知らせて頂いて、数奇な運命に立向って奮闘された興味ある人生記録を知り　おしん以上に身近に感動しました。

今回の記事は良い物ばかりで　編集者の御苦労もお察し致します。さて二町合併により町名も様変りして中川根の字が失くなるかも知れない、中川根の係わる記事を沢山載せるものにしたい、との事、大変立派なお考えで協賛の気持ちでありす。私への依頼の事を夕飯に晩酌をやり乍ら考えたのですが、あってなきが如しで、何を書いたら適当か判りません。町外の購読者が多いと見て、東京を首題として「東京とお茶と私」と云う題で、私がお茶に関係し乍ら、東京に厄介になった事を羅列して見ようと思い付きました。それでよいでしょうか。

二月二十三日　夜

〝つけ言〟

茶っきり節は、昭和二年に作られて　昭和三年の秋頃だったと思い出しましたが、静岡県茶業連合会議所が、外国茶商を大勢招待して、牧之原の県立茶業試験場の裏の松林で宴会を開いた時でした。其の時静岡から芸妓十数名を連れて来て「茶切り節」を唄い、三味線代りに小皿をたたいて踊った事がありました。私も遠くで見ていて初めて聞いた事が印象に残った一駒です。

シベリヤ抑留生活でチタ第六収容所の時、昭和二十一年十月だったと思いますが、珍しく演芸大会が催され、皆が歌を唄いますので、私は静岡県代表で「茶切り節」を唄いますと云って下手乍らやったものです。「僕も静岡県だ」と名乗り出る人があるかと期待したのでしたが、誰も知らせてくれませんでした。

牧之原開拓地は農業講習生として一年、茶業試験場助手として二年厄介になった所で、懐しい所です。

中勘助に就いては、羽鳥の石上さんがお茶の手揉の事を話して、それを中勘助が書き、小説にしたものを、静岡県茶手揉保存会初代会長の佐藤英雄さんから頂いたので、昭和四十年頃知ったものでした。

第68号を中野さんにお送りした際、寄稿をお願いしたところこころよくご返事をいただきました。九十四歳というご高齢にもかかわらず、美しい文字、わかりやすい文章。以前いただいたお便りも併せ69号、70号に分けてお届けします。

# 東京とお茶と私

中野幸逸

(1)

昭和七年四月より中川根村農会技術員として勤務した私(22才)は、川根七ヶ村農会技術員会に参加し、川根茶業会と、川根七ヶ村農会連合会共催の川根茶宣伝事業を行う事になり、昭和八年六月十六日、静岡県農会及び静岡県茶業連合会議所を訪問して、川根茶宣伝方法について御指導御協力をお願いし、翌十七日上京して、神田の帝国農会販売斡旋所に、野田技手を訪れ、川根茶宣伝方法として、東京駅前丸ビル物産陳

列所に川根茶を陳列して、即売を行う事になりました。

準備も出来たので七月二十四日上京し、野田技手の応援を得て、丸ビル一階の陳列所の棚に川根茶の最上級里の誉(二十匁黒塗缶入)上級松の翠(四十匁白缶箱入)中級竹の露(同白缶入)下級梅の薫(同)を陳列したのでした。

陳列棚一枠使用料一ケ月十円で、年百二十円も掛り、年間売上げ額が使用料に充たないので、二ケ年間で中止致しました。誠に幼稚な宣伝方法でありましたが、当時はデパートもなく、うまい方法はなかったのです。積極的に宣伝に乗り出した事だけは買って下さい。

東京行進曲の一節に「恋の丸ビル あの窓あたり 泣いて文書く娘もある」とありますね。これは昭和四年発表ですから皆さんも唄った事でしょう。

(2)

昭和二十八年四月より川根茶業組合が新しく設立され、私(43才)は常務理事となり、生産指導と販売宣伝を主要な事業とし、技術員三名と女子職員二名と共に勤務したのでありました。そして三十一年三月六日より十一日迄、東京渋谷の東横デパートで、川根茶の宣伝として焙炉を置いて手揉実演と、お茶の販売を行ない、一日は徳山の盆踊りが上京して屋上で踊った事があります。

(3)

昭和三十八年四月二十六日、川根茶業組合常務理事を十年続けた私(53才)は、東京NHK放送局が駅近くに在った時、娘三人を連れて上京し、放送局で永六輔・森山良子、外一人と対談で川根茶の話や「茶切り節」を唄った。雨降り番組の録音に行きました。旅費宿泊料をもらったので翌日四人で鳩バスに乗り東京見物をして帰って来ました。

(4)

同三十九年四月二十九日、藤川高田農園で「献上茶」の謹製を行い、五月二十九日上京、高田一夫君、佐藤英雄県手揉保存会長、県庁商工課茶業係と私の四人で、宮内庁を訪問し、総務課長に献上茶を御依頼した際、課長が焼跡を案内して「此所に皇居が建築されます」と説明して下さいました。其の后立派な皇居が新築されたのです。

(5)

同年十一月二十三日、全国農業祭には、前年全国茶品評会で優勝した水川農事研究会が天皇杯を受領する事になり、研究会代表、茶娘十五人と共に上京して参加し、都内を装飾のオープンカーでパレードしたのでした。

(6)

昭和四十三年十一月の全国農業祭に、時の農林大臣西村直巳先生より「茶娘二人連れて来い」との事で連絡があったので、私は大急ぎで川根茶業組合職員西原千恵子(現滝尾)農協下長尾支所職員浜谷とくえ(現姓小坂)の二人に依頼し三人で上京したのでした。二十三日の農業祭が新宿で行われ、祝賀パレードの装飾自動車に、大臣等と一しょに茶娘姿になって二人は同乗して都内を一周したのでした。私は偶然式場へ向う竹山祐太郎建設大臣にお目に掛ったので、「茶娘二人連れて来ました」と報告挨拶をした覚えがあります。

参考にと思って、現在川根茶協同組合が東京方面で宣伝販売をやっているだろうと、聞きに行ったら、近年はやっていない、との事でした。

静岡県茶手揉保存会は、毎年手揉実演事業として県外にも出掛けていますので、昨年の実績を記して見ま

した。関係地区の会員が見て〃そうか〃と思って下さればですが、出張先が限られ来たようです。

名古屋　松坂屋　四月二十六日～三十日
埼玉川口そごう　四月二十七日～二十九日
埼玉大宮そごう　四月三十日～　五月六日
東京上野松坂屋　五月三日～　五日
千葉　そごう　五月三日　～　六日
新宿　伊勢丹　五月三日　～　五日
青森市松木屋　五月九日　～　十四日

(7)　昭和五十六年私(71才)は、静岡県茶手揉保存会として十月九日より三日間、東京渋谷の東横デパートで開催の物産展で、手揉実演をやったので参加しました。

(8)　同五十七年五月四日、中川根町は献上茶の謹製を行いまして、同十九日献上の為、徳嶋淳男町長、議長、園主代表、手揉代表、茶摘娘代表、私等大勢で上京し、宮内庁にて献上茶を奉呈し、皇太子御所　鈴木善幸首相、農林大臣等にも川根茶を贈呈したのでありました。

(9)　同年十月東京上野の松坂屋で、関東十県物産展が開催され、静岡県茶手揉保存会も手揉実演をやったので、私も十八・十九日二日間参加しました。

(10)　同六十三年二月渋谷の東横デパートで物産展が開催され、県茶手揉保存会が手揉実演をやりましたので、私は一日だけ参加しました。

(11)　平成五年一月、東京三越本店七階で静岡名産まつりが開催され、今回も手揉保存会が手揉実演を行ったので、私(83才)も三日間参加しました。

その折柏市在住の作家藤沢幹雄さん(筆名胡代戦)を紹介され、其の后、藤沢さんが中川根へ来て、不動の滝、地蔵堂、智満寺、役場、茶茗館、徳山浅間神社、大泉院等を廻られたり、藤川の県手揉茶無形文化財保持者高田一夫君、手揉永世名人相藤良雄君と私の四人で寸又峡温泉に宿泊したのでした。其のご縁で藤沢さんは六年十二月「茶郷」を刊行されたので、皆さんに読んで頂いたわけであります。

私はお茶との関係が深いし、お茶人生でありましたから、表題のように、東京との結ばれ様を羅して書いたのでした。面白くもないのに読んで下さり、誠に有難うございました。

おわり

## 私の茶歴

一、昭和二年　中泉農学校三年の時、茶の手揉実習をやった事。
二、同　三年　県農業講習所茶業科生として県茶業試験場で手揉機械製茶、茶樹栽培等一通り勉強した事。
三、同四、五年度、県茶業試験場助手を勤めた事。
四、同七年より七ケ年、農会技術員として茶に関係した事。
五、戦后二十五・六年　(中)再製茶工場主任をやった事。
六、昭和三十九年より四年間　(長)長尾社製茶共同組合長をやった事。
七、同二十八年より四十五年まで十八年間、川根茶業組合常務理事勤務の事。
八、同五十六年より十六年間、静岡県茶手揉保存会副会長を勤めた事。
九、平成九・十年度二年間、県茶手揉保存会会長を勤めた事。

等々が認められ、平成七年十一月三十日東京虎ノ門パストラル会館で農林水産大臣野呂田芳成氏より表彰状を頂いたのでした。

以上

# 農業指導半世紀中野幸逸氏の健闘

大井川渓谷より　故 松下麟一さん 稿

昭和三十二年一月十七日、中川根村農業研究会が誕生し、会長に中野幸逸さんが選任されました。前年十月、中川根村と徳山村が合併して新しい中川根村となったが、新村建設はまだ暗中模索の段階でしたが、各種団体に先がけて、各集落の農業研究会が大同団結して、五百人余の会員を持つ組織ができたのは、両村の青壮年が日頃中野さんのまじめな活動ぶりをよく知っていて、その呼びかけに応じたからです。

新しい農研(農業研究会略)は中野さんの陣頭指揮の下で、食糧増産から茶業振興へと活動方針を切換え、折からの茶業不況を乗りこえ、川根茶の銘柄を確立しました。

中野幸逸さんは、明治四十三年、中川根村下長尾で生まれ、昭和三年、県立中泉農学校を卒業した後、県立農業講習所で学び、四年から二年余県農業試験場茶業部に勤め、七年から十四年まで県農会技手(中川根村農会駐在)として活躍しました。

丁度昭和恐慌の真最中で、農家の苦難を少しでも和らげたいと、抑制キュウリの栽培を指導したり、見本茶缶を一杯入れた袋をかついで京浜地方の企業を巡回して、茶の販路拡張に努め、農家所得の増大を図り、また、詳細な調査結果に基づいて、経済更生計画を策定、実践しました。

十五年からは村主事となり、村起こしの仕事を続けたが、急傾斜で散在する狭隘な耕地、所有が偏在する山林など経済基盤は浅く、脆いため、所得増大には限界があり、なにか突破口はないかと、苦悩していました。

こうした折柄、板谷壮吉助役が、奉天付近の富士郷開拓団を視察し、満州開拓以外に村民の生き延びる道はないと信じ、帰国後、分村移民の必要を説き、中野さんも各方面から情報を集めて検討した結果、分村を支持するようになり、先ず十七年春、先遣隊を送り、自らも十九年二月から内原とハルビンで幹部訓練を受け、同年七月、龍江省陳東県に入植した川根郷開拓団の団長代理兼農事指導員として赴任しました。

満州での村づくりは順調に進みましたが、二十年五月、関東軍の移民根こそぎ動員で召集され、八月九日ソ連軍侵攻によりシベリヤに抑留され、二年余、言葉に絶する重労働、飢餓、厳寒を体験し、二十二年六月、やっと祖国の土を踏みました。

しかし、開拓団の情報は全く判らず、おそらく全滅したとしか思えず、おめおめ故郷へは帰れない、北海道へ渡って馬力ひきでもして、贖罪しようと決心し、故郷への中継駅・金谷を通過しようとしたら、なんと、父母や死んだと思った妻子や団員が大勢金谷駅で待ち受けており、地獄から天国へ昇る思いで下車しました。

この時の感激と、生来の強い責任感で、帰郷後は中川根村開拓農協の沢井米太郎組合長と協力して、四つの開拓集落を作り、全団員が安定した生活ができるよう奔走しました。真冬の茶業組合の事務所の裸電球の下で、団員たちの面倒な在外資産補償申請書を、夜遅くまで書いていた中野さんの姿を今でも思い出します。

中野さんは、その人柄と識見を評価され、二十八年に発足した川根茶業組合の常任理事に選任され、十六年間川根茶の振興に専念し、生産者・農協・商工業者・行政が一体になって茶業振興に邁進する体制を整え、一方、前

述の農業研究会など実践部隊を指導し、各段階の品評会で常勝させ、改植率を県下一にし、川根茶の銘柄を全国津々浦々まで認識させることに成功しました。

全国大会に参加した職員が産地視察しなかったことを、日頃温和な中野さんが、厳しく叱ったのもこの頃のことでした。

四十五年から九年間、町教育委員会教育長として学校統合、社会教育振興などに大きな功績を残し、プール開きで低温のため逡巡する教師らを鞭撻するため、自ら模範泳法を披露するなど、ここでも筋を通しました。

中野さんは、今も県手揉茶技術保存会副会長や、ゲートボール指導者として、若者そこのけの活躍を続け、住民の誰からも敬愛されています。

平成四年四月十四日、

## 中野幸逸氏表彰歴

✿茶業功労者として「杉山彦三郎顕彰会」表彰

✿技術功労として（農林水産大臣賞）
「第十七回食品産業優良企業等」表彰

✿静岡県知事表彰（茶振興功労として）
平成二年十一月三日

※十一ページよりの資料提供、
中川根町役場 総務課長 滝本佳宏さん

中野さんが示された履歴の中に、表彰など、ご自分の誇りは記されていなかったので、役場に問い合わせたところ、右記表彰歴と故松下麟一さん稿、「農業指導半世紀・中野幸逸氏の健闘」や、「茶業御意見番の直言を聴く」等の資料を提供して下さいました。

## "静岡・川根交流グランドゴルフ会"を開催

去る二月七日、（土）、清水三保半島の先端ユースホステル内、グランドゴルフ場において、"静岡・川根交流グランドゴルフ会"と銘打って、今、中高年のスポーツとして人気の高いグランドゴルフを、相互の親睦と、健康維持の名のもとに、有志十二名が参集して行われました。

当日は晴天ではありましたが、強い風が災いし、皆さんスコアをまとめるのに苦労されました。

でも、この景勝の地で、一人の脱落もなく、有意義な一日を過すことが出来ました。

打点争いでは、交流会にふさわしく、一位と僅か一打差で、中川根町藤川の梶山法男君が奮闘し、二位に入りました。

当日の上位入賞者と、参加者には、用意された賞品（粗品です）が配られました。

（次ページ入賞者の氏名敬省略）

一位 前田智士（青部出身↓静岡在住）
二位 梶山法男（中川根町藤川在住）
三位 西田享司（徳山出身↓静岡在住）
その他ラッキーセブン賞、ブービー賞、ホールインワン賞（六コ）、参加賞がありました。

又、一位には優勝カップ（持廻り）が贈られました。年数回、今後も継続して行く予定です。

今回行われました三保ユースホテル内グランドゴルフ場は、公認のグランドゴルフ場で、その後、二月二十二日、二十三日の両日、清水カップ全国グランドゴルフ大会が、三六〇名の参加で盛大に行われました。三保の松原に位置し、会場内には椰子の木が生い茂り、自然環境に恵まれた立地条件にあります。

静岡市 西田享司さんより

## 中野唯司さんよりの便り

下長尾出身・東京在住

節分も終り春を待つ今日この頃です。お変りございませんか・・・私は七十一歳に成りました。

今日は、先日届いた浜松に住む同級生からこの記事が送られて来たのを、お届けします。

### 妻が見ていた大井川

―東京・新宿で白井さん写真展―

多くの写真家・写真愛好家が、作品発表の舞台として目指す、東京都新宿区の新宿ニコンサロンで、県西部家畜保健衛生所主幹の白井健康さん（48）が、一月二十七日から写真展「大井川―妻の見た川」を開く。二月二日まで。

白井さんは家畜保健所に勤める傍ら、二十年ほど前から写真を始めた。今回は大井川を題材にした作品四十四点を展示する。

路面にアユの絵が描かれたもの、道路の向こうにおとりアユを販売していることを示す様子を撮った作品など、大井川周辺で白井さんの心に残った風景ばかり。「妻が大井川近くの出身なので、妻が昔、見ていた大井川は、こんな風景か、と思って撮ったが、浜松出身の私にとっても、なんだか懐かしい風景だった」と白井さんは言う。

**大井川**
～妻の見た川

大地のぬくもりを足裏に
流れる水を手のひらに
ふるさとの風に吹かれ
移ろいゆく光や時間の
澱みのなかで
喜び 悲しむ

**白井健康写真展**
2004年1月27日(火)―2月2日(月)
10:00－19:00（最終日は16:00まで）
新宿NikonSalon
新宿エルタワー28階・ニコンプラザ新宿内

古里を想う気持ちは誰よりも強い私です。"大井川"と聞いて早速二月二日に見に行って来ました。

会場は小田急百貨店前のビルの二十八階にありました。

「妻が見た大井川」この妻とは、大井川町生れの方で、会場で本人にも会いました。

白井さんは、"川の暮らしを見たかった"と大井川をさかのぼり、金谷から千頭ま

で歩いて写真を撮ったと言っていました。

四十四枚の写真の内、やっぱり目に付いたのは、前ページの写真でした。場所は地名から下った大井川の土手らしい。白井さんも「アユはつれないんだってね…」と心配顔でした。原因は上流久野脇のセキ（塩郷堰堤）がネックでしょうが……

中川根町と本川根町の合併問題が起っている様で、故郷を離れた人達の年賀状に記してあります。大井川流域が同じ町名になって、アユが泳いでいる川、川遊びの出来る川がよみがえってほしいと願いますし、新たな町起こしにもなると思います。川の権利がいろいろある様ですが、"生まれ育った故郷の大井川にアユの泳ぐ姿を見たい"と住民も心を一つにし、出身者や、大井川に想いをよせる皆様に声をかければ、"アユを放流する募金善"皆様、協力下さるのではないでしょうか。白井さんの中川根町の写真は、川根高校、校舎とグランドで汗を流す野球部の二人、露地裏の昔ながらの家屋など、故郷を想い出す一時となりました。

——中　略——

最後に「ユズ」の話を。"下長尾野口"の名で、ユズが暮に八百屋の店頭に並びました。びっくりしました。二ケで一三〇円、何年か前に下長尾の裏山に登った時、野口さんから「ユズの木を植えた」と言う話を聞きました。その木からこんなにいいユズが取れたんだ、と感心しました。東京で故郷を感じた年の瀬でした。

ふる里通信を待っています。

草々

※紙面のつごうで中略とさせていただいた部分は、70号に載せさせていただきます。

桜の花が早咲きの年はお茶が霜にやられる、という諺（言い伝え）が、やっぱり生きていました。四月十八日頃より急に気温が上り、二十日頃からは三十度にもなり、茶の芽もぐんぐん伸びました。そして、二十四日から急に気温が下がり二十五日に晩霜に見舞れてしまいました。防霜ファンが設置されていて霜害をまぬがれた畑もありますが、茶時を目前にして暗い気持ちになっています。

二十七日は春の嵐となりました。全国的に強風、雨に見舞れましたが、皆さんの所は、どうでしたか。こちらの風雨もすごかったです。

69号を発刊して、すぐに70号を発刊します。今回号に載せられなかった記事（寄稿された方）をお送りします。皆様からのお便りを待っています。

## 定期購読のお願い

中川根ふる里通信は有料発行です。

1部　〒共　200円

皆様の定期購読がふる里通信の発行を支えます。年4回の発行を予定しておりますが、平成17年3月まで（今、1年間）は、増刊になると思います。中川根町の町名がある内に、多く発刊したいと計画しております。

購読料が切れた方には振替用紙を同封致しますから、ご利用下さい。もし、購読を止めたい時や、住所変更のおりも是非、ご連絡下さい。

郵便振替通知票番号
00870－4－81556

発行責任者　〒428-0313
静岡県榛原郡中川根町上長尾859-6
小沢節子
TEL 0547-56-0015
FAX 0547-56-0020